



Via Latina 22

2019年3月 278号

総本部よりのお知らせ－マリア会

コートジボワールでの終生誓願式



Raoul Rouamba士

2019年1月26日土曜日、Raoul Rouamba士がマリア会の終生誓願を宣立しました。この誓願式は、すべての恵みの母なるアフリカの聖母マリア巡礼聖堂で行われました。この聖堂はアビジャンにあり、マリア会がスタッフを務めています。フランス管区の管区長Hervé Guillo Du Bodan士がこの終生誓願を受け入れました。ヨプゴン司教区のSalomon Lezoutie司教がその日のミサを司式しました。特に、私たちはRaoul士の家族の方々の参列に注目します。

これら家族方々は国の内陸部とブルキナ・ファソから来ました。ついでに申しますと、Raoul士の両親はイスラム教徒であることに注目すべきです。Raoul士をマリア会に捧げてくださったこの賜物に対して、私たちは彼の両親に感謝します。

インドでの司祭叙階式



左から: Suman Dungdung師, Felix Toppo司教,
インド従属地区長Sudhir Kujur師

1月28日、福者シャミナード・マリアニスト小教区に於いて、Suman Dungdung助祭が Felix Toppo司教によって司祭に叙階されました。叙階式は沢山の捧げものと信仰心をもって執り行われました。シンプールのマリアニスト共同体、Fidel Nilaya共同体、Nazareth Nilaya (FMI修練院)、そして福者シャミナード小教区信徒たちが、この式典を素晴らしくそして祈りに満ちた行事にするべく一生懸命支えてくれました。マリア会員、Anup Kullu, Anuranjan Lakra, Dulare Lal Lucas, George Majhi, Pratap Guria そしてSebastian Baraは、数人の教区信徒とマリアニストシスターと共に、その美しい歌声で参列者たちが祈りに満ちた式典に入るのを大いに助けてくれました。家族の皆さん、マリア会員、FMIシスター、MLCメンバー、そして小教区の信徒、総勢で1800名にもものぼる参列者でした。この式典は全参列者へのお祝いの食事と地域伝統のダンスで幕を閉じました。

Suman神父、叙階おめでとう！

Fédéric Bini士、ローマのシャミナード国際神学校の新副校長に任命



Fédéric Bini士

総長と彼の評議員会の決定により、Fédéric Bini士がローマのシャミナード国際神学校の副校長に任命されました。最初の任期は3年間で、2019年9月1日から始まります。

Fédéric士は1971年に生まれ、2000年5月にマリア会で初誓願を立てました。彼は教育学、それから哲学の養成を受け、最終的に、修士(DEA)の資格を得ました。2007年から2016年の9年間、彼は哲学の教師で、同時にカラのシャミナード中学校の校長を務めました。現在、彼はトーゴのソトゥブア共同体の院長であり、また哲学の教師でもあります。これ以外に、彼はマリアニスト技術専門中学校の指導主事でもあります。Fédéric士はまた地区長評議員会のメンバーでもあり、この評議員会で教育部長の責任を引き受けてきました。

Fédéric士は今、神学生の養成の仕事で神学校校長のFrancisco Canseco師を補佐するためにローマに来てします。彼はまたVia Latina22のチームの中で幾つかの責任を引き受けて、総本部への奉仕にその能力を活用することになります。

私たちは彼がこの新たな辞令を喜んで快諾してくれたことに感謝します。またこの新たな任務のため彼を快く送りだしてくれた彼の行政単位、トーゴ地区に感謝します。

この任命は、7年間、副校長を務めたLester Kaehler士がその任期を終えることを意味します。彼は奉仕することへの寛大さ、単純さ、快諾をもって、大変評価の高い奉仕をしてくれましたが、それは彼を知る会員たちが良く知っていることです。私たちは彼のユーモアを忘れることはできませんが、それは彼の兄弟的な共同体のセンスの非常に素晴らしい表現なのです。校長の傍で働く経験豊かなブラザーの存在は重要です。信徒会員のセンシティブで経験のあるサポートによって将来のマリアニスト司祭の養成を豊かにするために、私たちはこの協働を必要としています。



Lester Kaehler士

Lester士はこの任務を忠実に果たされました。そして私たちは全マリア会の名において、心から彼に感謝します。また私たちは、過去数年に渡りこの仕事のために彼を派遣してくれたアメリカ合衆国管区に感謝します。

Lester士、自分の管区への帰還、おめでとう！そしてこれまでの奉仕、有難うございました！

キューバ創設体への総長評議員会の訪問



キューバ ベルティエンテスのマリアニスト共同体
左より：Javier Coca師, Max Magnan士, Pedro Berganzo士とAndré Fétis師

2019年1月25日から2月3日にかけて、総長André Fétis師と教育局長Maximin Magnan士がキューバ創設体を訪問しました。

マリア会は2003年にキューバ島に入りました。現在、マリア会は2か所に拠点を持っています。1番目の場所はベルティエンテスで、島の西部にあります。2番目の拠点ピナル・デル・リオで、島の東部に位置します。マリア会はこの拠点を2014年に立ち上げました。これら2つの場所は約800キロほど離れた場所にあります。現在5名の会員たちがこれら2つの共同体にいて活動をしています。彼らは総本部からの2名の訪問者をその滞在中暖かくもてなしました。

それぞれの共同体での会員たちの任務は、小教区を活性化することであり、この小教区には礼拝と福音宣教のために周辺のあらゆる地域が含まれます。また、会員たちは適切な養成がカルチャーセンターで行われるよう活動しています。ピナル・デル・リオでは、共同体は新しく誕生した信徒マリアニスト共同体の育成に非常に力を入れています。これらの主な仕事に加えて、二つの共同体は社会的体制に関わる多様な働きをしてきましたが、それはこれらの仕事の必要性が数多くあるからです。

目を見張るような進展はありませんが、政治的観点から見て、私たちはこの国でカトリッ

ク教会の存在とその活動に対する確かな解放が感じられます。私たちは、この緩やかな発展が将来へと続き、教育の分野で私たちがもっと直接的に係ることが出来るよう希望します。

まさにこの状況は、福音宣教の仕事は緩やかに進展する、と言うことを意味します。しかしながら、私たちの会員は既に多くの素晴らしい事を成し遂げています。マリアニストの存在はこれら2つの拠点に於いて良く知られており高く評価されています。キューバの教会の重要な特徴は、修道会と小教区および司教区の間にある強い協力の精神です。私たちマリアニストにとって更に重要なことは、マリアニスト召命に興味を示す一定の若者たちがいるということです。

会員たちが生活と宣教活動の立派な証しとなっていることに私たちは感謝したいと思います。キューバにおける福音宣教は限定されたものですが、マリア会にとっては大変意義深いものです。教会のこの大きな努力への私たち修道会の支持は、新しい生活を目指しているこの国で続いています。キューバの私たちの二つの拠点は発展の可能性を持っています。この発展はゆっくりとしたつつましい小道を辿らなければなりません、この小道は真の福音的な魅力を有しています。私たちが自分たちの活動において本質的なものに戻らなければならないのは、この理由のためです。第一に、私たちは私たちの兄弟愛の中に私たちの支えを見出さなければなりません。第二に、この働きはそうする価値があるので、私たちはキリストとマリアに信頼を置かなければなりません。



キューバ ピナル・デル・リオのマリアニスト共同体
左より：José Vicente López師, André Fétis師, Max Magnan士,
Javier Anso士とCeferino Calvo士

総長評議員、ブラジル特別地区への訪問



ブラジル特別地区のメンバー Pablo Rambaud 師とともに

1月26日から2月3日にかけて、総長評議員会メンバー、Pablo Rambaud師とMichael Mc-Award士がブラジル特別地区を公式訪問しました。この特別地区はスペイン管区に属しています。7名の修道者がおり、2つの共同体にそれぞれ3名、ローマの神学校に1名、そして1名の修練院者がサラゴサにいます。マリリア共同体は黙想の家とコンフェランスセンターを活気づけており、またその地域の信徒マリアニスト共同体を手助けしています。

バウル共同体は小教区のスタッフとして働き、マリアニストが創設したカナ・プロジェクトと共に働き、そして幾つかのMLCグループを支援しています。

この訪問には、2つの共同体とこれらの活動における様々な体験が含まれていました。特にうれしかったことは、マリア会共同体および様々な信徒マリアニストグループとの会合でした。また二人の訪問者はサンパウロ市近くにあるカンピーナスのFMI共同体を訪問する機会を持ちました。

この総長評議員会の訪問はブラジル特別地区にとって特別に重要でした。この特別地区の会員たちはバウルの1つの共同体への統合を見込む過渡期にあるからです。バウル市に非常に大きな（託児所から高校卒業までの）新しいマリアニスト学校の建設が既に進行しています。マリア会は、カナ・プロジェクトと2つの都市での信徒マリアニストグループでの役割を依然として維持しながらも、この新たな任務にその努力を集中するとの決定を行いました。勿論、この企てには多くの課題があります。しかし、修道者たちは輝かしい将来と、明快で

具体的な方法でマリアニストカリスマを受肉させる機会を得て、胸を躍らせています。

私たちは、非常に兄弟的もてなしと、ブラジルにおける私たちの宣教活動への彼らの長期の献身について、特別地区のメンバーに感謝します。彼らがこれから1年半に渡りこの過渡期を進んでいくので、私たちは祈りで支えてくださるようマリア会の全会員にお願いします。



工事中のバウルにある新しいマリアニスト学校：付属建物の一軒

総長評議員会のコロンビア・エクアドル地区訪問

2019年2月3日、総長評議員会4名のメンバーがコロンビアのボゴタに到着しました。2名はブラジル訪問から、他の2名はキューバから到着しました。彼らは合流して一緒にコロンビア・エクアドル地区の視察を開始し、2月19日までここに留まります。

コロンビア・エクアドル地区は23名の修道者によって構成されています。コロンビアのボゴタとジラルド、そしてエクアドルのラタクンガに共同体と事業所があります。さらに、1人の修道者がチリにあるCLAMAR（ラテンアメリカ・マリアニスト会議）の修練院院長として任務についており、他の1名はエクアドルのキトで教職と研究に携わっています。地区の宣教活動としては、3つの学校と3つの小教区、貧困者への種々の社会奉仕活動、そして、幾つかの信徒マリアニストグループのモデレーターとしての働きが含まれます。

総長評議員会はこれら全ての共同体と事業所を訪れました。地区の修道士の皆さんとその協力者から受けた兄弟的もてなしに深く感謝します。高い海拔にあるボゴタの気温は、訪問期間中、大変快適でしたが、市の郊外に出てみると、赤道近くの生活の現実は非常に歴然としたものでした。



コロンビアのボゴタ パリオ・パレルモ・スールにある福者シャミナード小教区

最近の数年間に、この地区はジラルドのマリアニスト聖霊中学校の不動産を贈り物として受け取りました。コロンビアで50年以上に渡るマリア会の存在にもかかわらず、これがマリア会が完全に所有する初めての事業所です。オープン・キャンパス（学校案内の行事）、種々の展示仮設館、そして先生たちと生徒たちの特別な歓迎など、この学校訪問は大きな喜びでした。それに加えて、マリア会はこの学校の直ぐ傍にある小教区のスタッフを努めていますので、そのことは広い宣教の場に存在する機会となっています。

ボゴタでは、評議員会メンバーは「福者シャミナード小教区」と「慈悲の聖母小教区」でミサを捧げ、一人の会員が校長を務める「聖なる使徒」学校を訪問することができました。この学校では、マリア会はまたチャプレンと生徒司牧の指導者を派遣しています。評議員会は間もなく完成する新たな地区本部の建築現場を訪れる喜びを得ました。

エクアドルでは、2名の評議員会メンバーは、世界的に知られているマリア会修道士、Giovanni Onore士が管理する熱帯林の保存地オトンガ、そしてラタクンガにある「Casa Campesino」（農民の家）と「Hermano Miguel中学校」を訪れる特典を得ました。そこで、また彼らはFMI共同体の歓迎を受けました。

地区には養成中の3名のブラザーがいて、皆、有期誓願者です。ここでは彼らは“juniors”と呼ばれています。その中の2名は最近初誓願を立てました。現在彼ら3名は大学の授業に出ています。この地区は養成と召命司牧に関わり続けています。

この地区での約3週間の滞在の後、総長評議員会は地区評議員会、地区会議、そして修道者に対して、将来に向けての激励と方向性を示すことができました。この地区は比較的若い修道者に恵まれているので、地区内だけではなく、ラテンアメリカの他の行政単位に取っても、将来の可能性に多くの希望があります。



コロンビアのヒラルドー エスピリト・サント校のシャミナード軒

列聖請願総代理よりのメッセージ



病気治癒あるいはその他の取り次ぎをお願いをする時、福者ギョーム・ヨゼフ・シャミナードと福者マリー・ド・ラ・コンセプション・デ・バツツの両者に同時に祈願するのは可能かどうか、というお尋ねが幾人かの修道者からありました。

この件に関して私たちは教皇庁列聖省と相談した後、これら2つの列聖調査は異なるものなので、可能ではないとの返事を受け取りました。例えばリジュエの聖テレサの両親の列聖調査はその両方にとって1つでした。このケースでは両方一緒に祈願するのは可能でした。

しかし、私たちの創立者に関してはこのケースではありません。ですから、二人の起こりうる列聖が問題となる限り、同一の形式を用い、二人の共同の執り成しを求めて、個別の意向を捧げることは妥当ではないようです。

祈りの要請

スイス地域共同体のマリアニスト修道者、ジャンポール・フェダーネダー士 (Jean Paul Federneder) が腫瘍に冒されています。彼の治癒のため、福者シャミナード師に3月11日から19日にノベナの祈りで執り成しを祈願してください。

最近の総本部通信

- 訃報：9号～10号
- 2月20日：教育局長、Maximin Magnan士からラテンアメリカの教育部長と行政単位責任者宛てに2019年のマリア会教育要覧のための情報提供の要請。
- 2月25日：全てのマリアニスト修道者向けに2019年マリアニスト家族の保護の祝日のための資料（3か国語で）

アドレス変更

- Fr. Larry Doersching (US): revdoclbd@hotmail.com
- Fr. Patrick McDaid (US): FrPatHawaii@gmail.com
- Bro. Cyprian Maingi (EA): paxvobiscumcyprian@yahoo.com